

春季大会 遠見塚 2部優勝

仙台市ミニテニス春季大会が平成25年4月7日、仙台市の宮城野区体育館で52チームが参加して開かれた。

開会式では、1部七郷Aチーム古賀昭則主将写真左は



「我々はミニテニス精神のつとり、正々堂々と競技に参加し優勝目指し頑張ります」の宣誓に、会場からはヨッシャーの声飛び交った。大会は、女子、混合、男子の

3ダブルスによる団体戦。予選は各部を二つのブロックに分け、1位同士10点先取の1ゲームマッチで行った。

1部は、荒浜A写真左



が2-1でミニントAを下し今季第一戦目を手中にした。優勝した写真中央末永薫選手は「硬軟織り交ぜた集中攻撃と粘り強く守りいい形で勝てた」と額の汗を拭いた。

2部決勝戦は、遠見塚―やまがたF・A、両チームとも予選危なげなく勝ち上がった。追いつ追われつの攻防を2-1で制したのは写真左 遠見塚、関享子選手写真左



は「久々の決勝戦で、心地よい緊張感を味わえてとつても楽しかったです」と語り目が輝いていた。惜敗したやまがたF・A原田恭志選手は「悔しい。きつと次回はやってやる」と雪辱を誓った。

3部は、攻守に安定感が出てきた茂庭台―しろいしB戦と

なった。2-1の接戦を制したのがしろいしB写真左



優勝を逃した茂庭台、丹野啓会長は「試合のテクニクを身に付け、次回の試合に望みたい。その時勝つことができれば、日常生活では経験できない感動を得られるでしょう」と自分に言い聞かせるように語った。今季最初の大会は、各所で熱戦が展開され大盛会だった。

(仙台市 渡辺 勝利)

仙台市民総合 体育大会

仙台市ミニテニス協会は平成25年4月21日、第17回ミニテニス大会に50チームがエントリー、選手たちは試合前からヒートアップ、気合が入っていた。



「親子ほど年齢の違いでも永久の愛を誓い、正々堂々と競技します」

との宣誓に、会場から温かい拍手があった。試合は、親子や夫婦ペアなど等和やかな雰囲気にも包まれていた。写真左は、古城チームの川村孝男選手左と長男川村賢一朗選手、親がナイス



レシーブすれば、長男が強烈なスマッシュで点を稼ぎ親子の連携は抜群。羨ましい・・・。3部決勝戦は、六郷―七郷B、3―0で七郷Bが優勝、男子ダブルス戦

に母親とペアの佐藤翔選手は「これからもいい場面でしたっけ」と結果を出したい」と意欲をみせた。六郷渡辺暁選手は「次の大会にむけて課題がはつきりした。一つ一つの精度を上げたい」と語った。



2部は、しろいしA―やまがたF・A、1勝1敗でむかえた女子ダブルス戦、一戦ごとに力を出し切ったやまがたF・Aが制し、2部昇格

写真3部優勝の七郷左から佐藤希・佐藤翔・堀江ゆかり、の3選手。

2戦目で優勝を手中にした。浦山明子選手は「自分一人の力ではない、チーム一丸となり最後まで競い合いができた結果です」と顔の汗を拭いた。

世代超え熱戦展開 430人 試合後笑顔で握手

写真やまがたF・A、左から、原田恭志・田中紘子・今野高志の3選手



写真左今大会も磐石の試合運びで優勝、左から、末永薫・菅野義仁・中澤友佑の3選手。



(仙台市 渡辺 勝利)

東北大会 ZUNDA 4連覇

第6回 東北ミニテニス交流
秋田大会が平成25年5月12日、
秋田市立体育館で愛好者59チ
ームがエントリー約430人が心
地よい汗を流した。



写真 大会前日、秋田、能代

仙台の3協会は、次年度からの
東北大会について縷々審議し
た。昨年の山形大会、今年の秋
田大会2年続けて仙台国際ハ
ーフマラソンと重なった件、ま

た、全国親善仙台大会を7月か
8月ごろ開催では如何か、大会
運営・要項等は地域制を生かし
た大会ではなど等有意義な会
議であった。

懇親会も盛り上がった、秋田
美人のお酌で一杯のお酒格別
だ。秋田市協会の伊藤正治副会
長も笑顔でポーズ。写真 左



開会式では柴田文男大会会
長は本大会を通して、親睦と友

情の和を大きく広めていただ
ければ幸いですと挨拶。続いて
佐々木正春 佐々木郁子の両選
手 写真 左は「人と人とのつ
なかりを第一に、全ての技を駆
使し楽しいプレーを・・・と



の宣誓に会場からは意気込み
の拍手が沸いた。

大会は3部門に分かれ、予選
リーグ、決勝トーナメント方式
で行った。各部門ともミニテニ
ス特有の技を駆使しての迫力
ある攻防に、会場からはどよめ
きと声援が飛び交っていた。

A部門で4連覇を達成した

ZUNDAチームの島影愛選
手 写真 左は「4連覇は考え



ていなかったので素直に嬉し
い、大会を企画していただいた
皆様に感謝です」と流れる汗を
拭った。

「スポーツをするからには強
くなりたいたい。勝ちたい」と思う
のは当然のことだが、半面、年
代を超えて楽しみを分かち合
える多くの仲間が集い、出会い
や触れ合いを通じて気持ちの
いい汗を流すことにも意義が
あるのでは・・・

来年は能代市で会いましょう。

仙台市（渡邊 勝利）



未曾有の大震災復興を期した「全国ミニテニス親善仙台大会」は平成25年6月30日、仙台市宮城野体育館で開かれた。大会には、日本ミニテニス協会加盟団体から49チームがエントリーし、熱戦を展開した。

第2回全国ミニテニス親善仙台

開会式では写真上右、仙台市体育協会斎藤建雄会長は、震災復興はこれから、体育協会加盟団体は復興を掲げ各々大会を行っている等と挨拶。写真上左、日本ミニテニス協会天野孝一理事長は、大震災の翌月18日若林区の現地を視察し自然災害の恐ろしさを実感したなど等の挨拶をいただいた。



能代愛好会 大高圭 右、柴田恵輔の両選手は、正々堂々と楽しくプレーしますと宣誓した。

大会はAフリーとB6才以上の2部門。予選から決勝戦まで6ポイント3セットマッチ。試合は予選からヒートアップ。A部門決勝戦は、秋田愛好会 | フォ・エイト戦、1勝1敗でむかえた混合戦、フルセットを

制したのは秋田愛好会、写真中央高杉正幸選手は「結果を



出せてよかった」と安堵の表情を浮かべた。



惜敗した川村賢一朗選手は「粘りを見せたが一步およばなかった」と語った

B部門は、大住ミニテニス | 楽遊会、全員女子で望んだ楽遊会は善戦したが1勝2敗で惜敗した。



写真左 B部門優勝に貢献した大住ミニテニスの女子選手

優勝の矢島友喜選手は「ドラマあり・ハプニングあり・たくさんの笑いあり・とても楽しい思い出になりました」と話した。

表彰式では選手たちの表情は万感の思いにあふれていた。

(仙台市 渡辺 勝利)

平成25年度夏季大会 3部七郷B 優勝

仙台市ミニテニス夏季大会は8月18日、仙台市宮城野体育館に4チームがエントリ熱戦を展開した。大会は、女子混合、男子の3ダブルスによる3部制で行う。

予選は各部を二つのブロックに分け、1位同士が優勝を争った。3部七郷Bは4戦全勝で予選を勝ち上がり、決勝は2-1の接戦でしろいしBを制し優勝した。||写真||七郷B



佐藤喜代美選手写真左は、「パートナーを信じ、最後までくじけずにチャンスをつくれた」と振り返った。

2部決勝戦は、やまがたF・A対Bの戦いとなった。両チームとも予選を全勝で勝ち上がり仲間同士の一戦となり、3-0でやまがたF・Aが優勝した。||写真||左から田中紘子、大利



澄子、浦山秋子の3選手
やまがたF・B 大利選手は「これが今の100%を出し切った力だと思うので花丸です」と敗戦をすんなり受けとめら

れない自分を納得させるような口調だった。

1部は、荒浜A―荒町となった。1勝1敗でむかえた混合戦8―8の場面でのラリーを制すると波に乗った荒浜Aが接戦を制した。荒浜A末永直子選手は「優勝に貢献でき素直にうれしい」と流れる汗を拭いた。||写真||荒浜Aチームの3人



優勝を逃した荒町チーム、古山健造選手は「後半は相手に押し込まれたが、もう少し試合を支配したかった」と残念がった。

||写真||惜敗した荒町チーム



女子ダブルスを制した写真前列、右から古山レイ子・遊佐キヨ子の両選手は「個の力は相手が上、差が開いても粘り強く戦った結果」と口をそろえた。

当日の体育館内は3度暑さとの戦いともなった。選手たちはこまめに水分補給等健康管理に努め、今大会も成功裏に終了することができた。

(仙台市 渡辺 勝利)

熱戦観客魅了

若林区民まつりの一環として毎年14種目を行なっている「スポ・レク・フェスタ」ミニテニス大会が平成25年9月8日、仙台市の若林体育館で開かれ、参加した380人は心地よい汗をながした。



開会式では、若林区民ふるさとまつり実行委員会の平間敏春委員長の写真。左は「スポー

ツを通じて健康維持は勿論、親睦と友情の和を大きくひろめていただければ幸いです」など

とご祝辞をいただいた。

大会は年間成績による3部制の団体戦、各チームは女子、混合、男子の3ダブルスで編成、各部とも二つのブロックに分かれ、1チーム4試合を行う特別リーグ戦を行った。

3部 仙台南初優勝

今年度協会に加盟した仙台南チームの写真。左は南小泉



Cとの決勝戦、3-0で仙台南が優勝杯を手中にした、優勝した写真。左佐藤恭子選手は「夢のようです、これからもいい場面で結果を出せるよう精進したい」と流れる汗を拭いた。

2部 やまがた F・B 優勝

2部決勝戦はやまがた F・B 南小泉 B、両チームとも予選から味のある攻防を展開しての決勝戦、3-0でやまがた F・B が優勝した。写真。左優勝した今野高志選手は「うれ



しい、試合巧者の南小泉、後半相手に押し込まれたがなんとか踏ん張れた」と笑顔をみせた。南小泉阿部勝彦選手は「もてる力を出し尽くしたが相手が一枚上だった。相手を追い詰めるところまでいかなかった」と無念そうな表情を浮かべた。

1部 荒浜 A 連勝延す

1部の決勝戦は荒浜 A 荒町となった。両チームとも決勝戦進出の常連、互いに持ち味を出し尽くした好試合だった。



(仙台市 渡辺

＝写真＝上右、多彩な技術を持つ荒浜 末永薫選手の強烈なスマッシュ。左は、年代差親子以上の選手を相手に粘りを見せたが一步およばなかった、荒町 古山健造選手のサーブ。

秋季大会 遠見塚 2部優勝

仙台市ミニテニス協会秋季大会(団体戦)が平成25年10月19日、仙台市の宮城野体育館で開催され、土曜日の大会なので参加チーム数が懸念されたが、当協会加盟団体41チームが参加好試合を繰り広げた。

2部決勝戦は遠見塚―しろいしAの対戦、1勝1敗でむかえた男子W戦接戦を制したの
は遠見塚 写真 活躍した女



子選手達。上田敏子選手は「久々の優勝嬉しい、選手たちは強豪相手にガンバリを見せた」と胸をなでおろした。

3部 しろいしB V

写真 優勝したしろいしB



チーム、高橋輝美夫選手写真左は「1勝1敗の後のない試合コースを狙ってしつかりと打ち返すことができた」と自賛した

1部 連覇 荒浜 A

写真 負けの知らない荒浜の3選手、中央中澤友祐選手は



家族で団体戦を組めるMTツ―一家、結婚後更なる進化を遂げている。

競技委員会

仙台市ミニテニス協会は3部制、各部を2つのブロックに分け、予選7ポイント3セットマッチで4試合を行い各ブロック上位1チームが10ポイント1セットで決勝戦を行う。予

選から決勝戦まで空きコートが無いよう運営している。その中心となって企画立案しているのが 写真 競技委員会の左から菅原徳夫、安部宣明、高山千代子、齋ひろ子の競技担当



理事

競技委員会は大会ごとに反省も忘れず、円滑な大会運営のために見えてきた課題等をしつかりと検証し、見直しを行った上で競技運営に確実に活かしており、飛躍に努めている。

(仙台市 渡辺 勝利)

平成25年度 冬季大会

「バトミントンコートに、大きくて柔らかいカラフルなボール。協会立ち上げて16年目」今や老若男女を問わず、手軽に楽しめるスポーツとなったミニテニス、これほど普及、発展するとは思わなかった。

仙台市宮城野体育館で平成26年1月13日、冬季大会が開かれ50チームがエントリー、頂点を目指し熱戦が繰り広げられた。開会式ではミラクルKの



3選手は「今年最初の大会スポーツでできることに感謝し...全力で戦います」との宣誓に会場はヨッシャーの声飛び交った。

試合は3部制各都上位2チームが決勝戦を行った。

1部 荒浜A優勝

荒浜A2-1で連坊を破り連勝した。写真連坊A西村英機



選手は「優勝できなかったが協会No.1のペアに勝てたのは大

きい、自信になった。次回の対戦が待ちどろしい」と流れる汗を拭いた。



写真 荒浜A菅野儀仁選手は「連勝、相手は1点をめぐる勝負強さがついてきた」と相手の成長を褒め称えた。

2部 しろいしA接戦制す

1勝1敗でむかえた男子ダブルス戦、追いつ追われつの攻防で9対9、最後はしろいしAのスマッシュが決まりゲームセット。しろいしA、高橋輝美夫選手は「相手は1戦1戦成長している、1点をめぐる勝負強さを発揮できた」と語り手応えを感じたようだ。

TNB・A、小山淳選手は「次の大会にむけて課題がはつきりした。練習に精進し1つ1つの精度を上げたい」と雪辱を誓

った。

3部優勝 七郷B

Fブロック松陵、Eブロック七郷B、共に予選全勝で勝ち上がった両チーム。決勝戦でも攻防の火花をチラし一進一退の戦いを制したのは七郷B、堀江新一郎会長は「個の力を出し切り見事な勝利。選手たちの試合にハラハラドキドキ自分の試合より疲れた。ナイスゲームだった万点です」と選手たちを労った。

惜敗した松陵、板澤恵都子選手は「惜しかった、この敗戦を糧にやり直したい。届かなかった頂点を来季へ努力を重ねる道しるべにしたい」と意気込みを語った。

(仙台市 渡辺 勝利)

新年度に向け説明会

7協会 34団体熱心に聴衆



平成26年度に向けての説明会 仙台市若林市民センター（会議室にて）

平成26年度に向けての仙台市ミニテニス協会の説明会が、平成26年2月11日仙台市の若林市民センター会議室で行った。当協会加盟7協会34団体の「会長・理事長・事務担当者」等が出席した。

会長が議長となり、丹野克之理事長が説明を行なった。説明事項は

1)平成26年度仙台市ミニテニス協会運営について①平成26年度部制、②会員登録、③平成26年度大会日程、④春季大会までのフロー、⑤平成26年度大会要綱、⑥競技規則変更点、⑦その他

2)平成26年度各区ミニテニス協会運営について。など等の説明に出席者からの質問や意見に丁寧な応答行い休憩を挟み3時間を費やした。出席者たち



親睦の和広まる

の熱心な姿勢に新年度に向けての意気込みを実感した。

午後4時から会場を当館和室に移し恒例の懇親会を行った。懇親会には一般会員も参加司会者から山形市・白石市両ミニテニス協会様より多分なるご祝儀をいただきましたとご披露があった。

早速本多祐一朗参与の乾杯ではじまり、会場はお酒もまわりわいわいガヤガヤ。頃合を見て各協会、団体からクラブ紹介や新年度にむけての豊富や意気込み等に会場から温もりのある拍手が飛び交っていた。

未曾有の大震災から3年、被災された中間たちは未だ不自由な仮設住宅住まいを強いられる。だが元気に頑張っている。

当協会のできることは、公式大会と全国親善ミニテニス仙台大会を毎年開催することによって少しでも元氣と勇氣をと思っている。

（仙台市 渡辺 勝利）

『親睦と友情の和』広がる

仙台市ミニテニス協会は、平成26年3月23日(日)仙台市宮城野体育館を会場に「シルバードエイジ&レディース大会」を開催11人がエントリーされ、ラウンドで18チームに編成、チーム毎5試合を戦う特別リーグ戦を行った。

写真 左から丹野克之理事長、高山千代子・末永薫の両競



技委員、熟知した手法でスピーディに運営され予定どおり進行されていた。

選手たちも誰がパートナーになるのかウキウキドキドキ。ペアが決まると早速作戦開始、これもこの大会の良いところ。



写真 左は遠見塚チームの庄司貞夫選手のナイスサーブとパートナーはJOYチームの今野真弓選手、意気もびった

りでこの試合ストレートで勝利した。



写真 強いスマッシュで応戦するミニテニス愛好者の船田楓選手、5試合にフル出場「試合前は緊張したけど、始まったら何時ものプレーができてとても楽しかった」と笑顔を浮かべた。

試合は盛り上がり、フルセットにもつれる試合が続出した。好プレーや珍プレーにチームメイトから幾度となく歓声が上がると、そんな雰囲気の中コート上ではミニテニス特有の技を駆使しエンジョイしていた。

写真 勝っても敗けても自分たちの力を100%だしきろうとガッツポーズのLチーム。



(仙台市 渡辺 勝利)

閉会式で成績発表する、仙台市MT協会 丹野克之理事長=写真=右